

小泉文夫記念資料室の歩み

* 組織名と役職名は、実施当時名称を示す

年月日	実施内容ほか
1983.12	小泉三枝子夫人より研究資料が東京藝術大学音楽学部に一括寄贈される。
1985.4～ 1987.3	「 日本・東洋の楽器とその音楽様式に関する総合的研究 」〔文部省特定研究補助金〕を実施、寄贈資料に関する基本整備を進める。 【研究組織】代表：服部幸三（本学音楽学部長・教授）、柘植元一（助教授）、上参郷祐康（助教授）、白砂昭一（助手）、田辺史郎（助手）、田中多佳子（非常勤講師）、渡邊きみ子（非常勤講師）、小柴はるみ（非常勤講師、東海大学助教授）。*役職名のみは本学音楽学部所属。 【実施内容】①楽器誌の作成、②楽器の撮影（モノクロ、カラー、スライド）、③アジア諸楽器の音響実験、④諸資料のカード目録の作成（オープンリール、カセットテープ、レコード、書籍、楽譜、楽器、写真、その他）、⑤初期データベース（dB4）〔発案者：田辺史郎楽理科助手〕構築と入力の一部開始、⑥オープンリールをDATとPCMにダビング開始。*上記諸項目を資料調査補助要員約30名で分担。
1985.6	小泉文夫記念資料室開設（音楽学部2号館1階）、音楽学部研究センター所属。 【人事】柘植元一音楽学部教授（初代室長）、渡邊きみ子（助手）。
1986.9	【人事】田中多佳子着任（渡邊助手後任）。
1987.10/4～ 10/25	「 東京藝術大学創立百周年記念楽器展—小泉文夫記念資料室所蔵アジア・アフリカの楽器を中心として— 」〔会場：台東区立旧東京音楽学校奏楽堂1階展示室〕開催。 『東京芸術大学音楽学部小泉文夫記念資料室所蔵楽器目録』刊行。
1987.4～ 1992前半	小泉三枝子夫人の寄付金により、目録（書籍、楽器、写真）の作成とテープの複製作業を継続。
1989.10/17～ 29	奏楽堂特別展「 アジアの楽器—東京芸術大学小泉文夫記念資料室所蔵インドとその周辺の音具 」〔主催：財団法人 台東区芸術・歴史協会、後援：台東区教育委員会、協力：東京芸術大学音楽学部、会場：台東区立旧東京音楽学校奏楽堂1階展示室〕開催。
1992～1995	音楽学部期限付き謝金で諸資料の目録作成とテープ複製作業を継続。
1995.4	【人事】尾高暁子着任（～2021現在、田中助手後任）。学内LAN開通。
1996.5	『蔵書目録Ⅰ日本語』刊行。オープンリールの第一次デジタル化完了。
1997.4	【人事】遠藤徹助手着任（～2001.3）。
1997夏	ホームページ公開。製作協力：佐竹悦子氏、英語版翻訳：Molly Adkins氏。2000年にはWebWorld Portals（ユネスコHP）で日本の大学研究機関9件の1件に選出された。
1997秋	「マルチメディアを用いた楽器データベースに関する研究」〔平成7～9年度科学研究費補助金 基盤研究(B)(1)〕研究代表者：鈴木孝（東京工業高等専門学校助教授）、研究分担者：坪井邦明（千葉職業能力開発短期大学校講師）、志村哲（大阪芸術大学講師）、研究協力者：田中多佳子（本学博士課程）、尾高暁子。この共同研究の成果の一環として『小泉資料室所蔵楽器目録』訂正版をHPにて公開。
1997.9～ 2001.3	「 民族音楽アーカイヴズにおけるマルチメディア・データベースに関する研究：音響を主体とするメディア統合をめざして 」〔科学研究費基盤研究(B)(2) 研究番号09490011〕実施。【研究組織】研究代表者：柘植元一、研究分担者：安藤政輝（本学音楽学部助教授）、鈴木孝（東京工専助教授）、甲地利恵（北海道立アイヌ民族文化研究センター研究員）、尾高暁子、研究協力者：佐竹悦子。 【実施内容】①初期DB見直し、オープンリールのリレーショナル・データベース構築とweb公開準備。②テキスト、画像、音響の公開。③Authority Fileの整理とキーワード検索の付与。④多言語入力・公開の検討。⑤著作権隣接権処理と情報提供者のプライバシー保護の基本方針決定、遺族への許諾処理開始。
1999.9	『蔵書目録Ⅱ 中国語・韓国語』刊行。
2000冬	①「所蔵音響資料（オープンリール）データベース」のweb公開開始（国立情報学研究所学術情報データベースに「世界音楽データベース」として登録）し、NAMAZU（全文検索機能）を上記に付加。
2001.4	【人事】松村智郁子着任（～2021現在、遠藤助手後任）。

2001.4～	<p>「世界音楽データベースの研究とインターネット公開」 [科学研究費補助金(研究成果公開促進費 課題番号138114)]、[平成13年 財団法人ローランド芸術文化振興財団研究助成金研究] 実施。</p> <p>【成果公開】 「所蔵音響資料(オープンリール) データベース」のweb公開と継続入力。</p>
2002	<p>①「雑資料データベース」 [学内TA謝金支給] 入力およびweb公開開始。</p> <p>②「所蔵音響資料(オープンリール) データベース」のweb公開継続。</p>
2002.10/26～12/8① 2003.2/22～4/20② 4/26～6/1③	<p>「シルクロードの響き—ペルシア・敦煌・正倉院」 [主催:岡山市立オリエント美術館(①岡山会場)、岡山放送株式会社(①)、財団法人古代オリエント博物館(②東京会場)、東京新聞(②)、新潟県立歴史博物館(③新潟会場)。企画:財団法人古代オリエント博物館、監修:柘植元一。音楽監修:劉宏軍(音楽家、天平楽府代表)] 当室の所蔵楽器(ウード、ラバーバ、ネイ、ズルナー、サウンガウ、タンブール、ダブ、揚琴、太鼓、細腰鼓、笙、尺八、チャルメラほか) 全44点を岡山①、東京②、新潟③の巡回展に出品。</p>
2003	<p>「異文化理解を促進する民族音楽マルチメディア・データベースの開発と活用について」 [平成15年度松下視聴覚教育研究財団研究開発助成] 実施。</p> <p>【研究組織】 代表者:柘植元一、研究者:鈴木孝(東京工専助教授)、田中多佳子(京都教育大学助教授)、尾高暁子、協力者:松村智郁子、佐竹悦子。</p> <p>【実施内容】 ①全国700余名の小中学校教諭を対象に、異文化理解教育の現状とweb教材の要求に関するアンケート実施。②学外児童向けアジア楽器紹介サイト「アジアの音をしってるかい」 第一次試案作成。</p>
2003～2004	<p>「所蔵音響資料(オープンリール) データベース」の継続入力とweb公開(～2004、学内TA謝金による)。</p>
2003～2004.3 2005	<p>「近現代アジア・オリエント文化圏における音楽伝統の継承と変容」 [科学研究費 基盤研究(B)(2) 研究番号15320021] 実施。</p> <p>【研究組織】 研究代表者:柘植元一、研究分担者:田中多佳子、塚原康子(本学音楽学部助教授)、研究協力者:尾高暁子。</p> <p>【実施内容】 ①楽器と音楽調査(インド、ウズベキスタン)。②日本、中国近現代の楽器改良文献調査。③学外児童向けサイト第二次試案作成。</p> <p>【成果公開】 ①柘植元一教授企画楽器展「ひびき・かたち・そざい:東西の改良楽器をめぐって」開催。[会場:本学陳列館、会期:10/21～11/3、来館者4100名]。②同楽器展パンフレット作成(無料配布)。③上記科学研究報告書作成。</p> <p>④「所蔵音響資料(オープンリール) データベース」の継続入力とweb公開。</p> <p>⑤動画ストリーミング・サーバ試験運用開始。⑥多言語DB公開実現(トルコ語、ヘブライ語、韓国語)。</p>
2005.4	<p>【人事】 植村幸生准教授着任(～2019.3、柘植室長後任)。</p>
2006.4～2009.3	<p>「芸術系大学における楽器資料の教育資源化」 [科学研究費基盤研究(B) 研究番号18320028] 実施。【研究組織】 研究代表者:植村幸生、研究分担者:竹内順一(本学大学美術館館長)、連携研究者:岩崎真(本学音楽学部助教)、尾高暁子、薦田治子(武蔵野音楽大学教授)、高桑いづみ(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所 音楽舞踊研究室室長)、田中多佳子(京都教育大学教授)、中溝一恵(国立音楽大学 楽器学資料館講師)、研究協力者:森太郎(国立音楽大学准教授)、松村智郁子。</p> <p>【実施内容】 ①学内教育カリキュラム再考、②学外児童向けサイト「アジアの楽器図鑑」とタイトル変更の上、第三次試作着手。</p>
2006.7	<p>音楽学部1、2号館改修工事のため全資料を搬出し休室(～2007.9)。前後して大学側が当室資料の学内他部署による分散・移管を提案。当室は他校地への移転も視野に独立管理の継続を主張。最終的に音楽学部2号館2階17号室での一括管理が了承された。</p>
2008	<p>【成果公開】 ①学外児童向けwebサイト「アジアの楽器図鑑:アジアの音をしってるかい」作成と内部限定の試験公開、②音響実験を含む研究成果報告書作成、③学内講義での応用実践。</p>
2009	<p>「アジア楽器図鑑データベース」 [科学研究費研究成果公開促進費 研究番号218076、研究代表者:植村幸生]を継続製作。</p>

2010	<p>「アジアの楽器図鑑」〔平成22年度学長裁量経費 教育研究改革・改善プロジェクト経費〕日本篇ほかを追加収録。</p> <p>【実施組織】代表：植村幸生室長、関根知孝（本学邦楽科教授）、尾高暁子（当室学術研究員）、松村智郁子（当室学術研究員）。*収録にあたり、本学邦楽科教授陣・関根知孝（能楽・観世流）、小島直文（長唄）、三浦正義（邦楽囃子）および講師陣の全面協力を得た。</p> <p>【収録内容】能楽、長唄、大薩摩の独奏と合奏、邦楽囃子、三曲合奏、雅楽、義太夫、沖縄伝統楽器と舞踊、ジャワガムラン合奏、バリガムラン。</p> <p>「沖縄奄美民俗音楽資料のデジタル化と民俗音楽の変容に関する歴史的研究」〔科学研究費 基盤研究(B) 研究番号21320041、研究代表：金城厚 沖縄県立芸術大学教授〕により、沖縄の三線、笛を収録。収録動画は「アジアの楽器図鑑」で公開。</p>
2010.9	『蔵書目録 II 中国語・韓国語』を当室HPで公開。
2010.10/2	「芸大とあそぼう2010アジアのこどもサミット」で「 世界の楽器とWeb体験コーナー 」の企画と実施〔会場：本学音楽学部ピロティ〕。
2011.4	【人事】佐竹悦子教育研究助手着任（～2013.3）。
2011.4～ 2016.3	<p>新たに発足した「東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター」の「映像・音響研究プロジェクト」部門に音楽学部より所属変更。</p> <p>【実施内容】①2015年度までアーカイブ・アシスタント（以下、A.A.）を養成。 ②A.A.による作業で実施：①オープンリールのDAT複製音源をHDDへ移行（wavデータに変換）②各音源の情報を台帳に入力。</p>
2011.11/26	「研究者資料のアーカイブズ—知の遺産 その継承にむけて—」（東京大学大学院情報学環付属社会情報研究資料センター高度アーカイブ化事業 共同研究会+シンポジウム）に参加。当室を代表し植村室長が発表「 世界音楽のアーカイビングをめざして：小泉文夫記念資料室の概況と展望 」〔会場：東京大学本郷キャンパス情報額環 福武ホール〕。
2012.4～ 2015.3	<p>「大学と地域の連携による江戸伝統音楽・芸能の継承支援：新たなインリーチを求めて」〔科学研究費 基盤研究(B) 研究番号2432003〕実施。</p> <p>【研究組織】研究代表者：植村幸生、研究分担者：薩摩雅登（本学大学美術館教授）、小島直文（本学音楽学部邦楽科教授）、連携研究者：塚原康子（本学音楽学部教授）、尾高暁子、松村智郁子、久保仁志（本学総合芸術アーカイブセンター助手）、佐竹悦子。</p> <p>【実施内容】①「江戸伝統音楽・芸能データベース」作成。②楽器の素材調査および楽器製作過程の記録撮影。③企画展覧会。④「アジアの楽器図鑑」による撮影動画の一般公開。</p> <p>【科研関連の実施内容】①邦楽器製作者への聞き取り調査。対象：有限会社南部屋五郎右衛門（太鼓）、菊岡三絃店（三絃）、株式会社岡田屋布施、小倉楽器店、(有)大岡楽器、宮本卯之助商店、(有)大塚竹管楽器、篠原まるよし風鈴。〔「江戸伝統音楽・芸能データベース」にて公開〕②製作過程調査と関連動画の撮影。対象：丸三ハシモト株式会社（絹絃製造業、滋賀県伊香郡）、チーガの桃原・桃原栄仁氏（沖縄三線の胴製造業）、琉球楽器新栄堂・又吉真也（沖縄三線の棹製造業）③展覧会の企画（展示内容の調整、パンフレットの作成（2,000部、無料配布）、公開映像の作製、関連企画の準備）④「アジアの楽器図鑑」による公開：「楽器づくり」三味線の革張り、三線の胴と棹、両面太鼓革張り、絹絃、雨団扇、ぼっぺん、大鼓（能楽）の指皮。</p>
2013.4	【人事】久保仁志着任（～2016.3、佐竹教育研究助手の後任）。
2014.11/20～ 30	【科研成果の公開】①展示企画「 邦楽器が受け継ぐ 技・形・音 こめられた丹精：The Arts, Forms, Sounds between craftsmen and traditional Japanese musical instruments 」〔主催：東京藝術大学、助成：日本学術振興会、後援：台東区・台東区教育委員会・東京邦楽器商工業協同組合会場：東京藝術大学正木記念館1階、来場者：1,900名〕実施。
2014.11/22	②関連企画（体験型）「三味線は『わざ』のかたまりだ！さぐろう伝統楽器の世界」〔対象：台東区内の中高校生20名、助成：ひらめき☆ときめきサイエンス KAKENHI〕出演：小島直文（三味線）、関口奈々恵（三味線）、小林百合（唄）、村尾麻里子（唄）
2014.11/29	③実演「三味線の革張り」根ぎし 菊岡三絃店 堀米敏雄氏（台東区、長唄三味線製造）④実演「太鼓の革張り」有限会社南部屋五郎右衛門 石渡司郎氏（台東区、太鼓と神輿製造）⑤関連企画「上方落語のハメモノ・太鼓」〔助成：藝大フレンズ賛助金助成事業、対象：60名〕出演：林家染雀、笑福亭喬若、はやしや絹代（三味線）

2014.12	⑥「江戸東京音楽芸能DB」試作品をHPで公開。*2021現在は公開休止中。
2015.2	「アジアの楽器図鑑」の更新：「長唄」《風流船踊》《舌出三番叟》《月の巻》 [邦楽定期(学内邦楽科の公演)より]および各出演者への許諾処理。「モンゴル編」 公開。「インドネシア・ジャワ編」独奏楽器(スリン、ルバブほか追加撮影)。
2015.7/5	小泉文夫三十三回忌記念音楽会「〈民族音楽〉との邂逅：小泉文夫のメッセージ」 [主催：「〈民族音楽〉との邂逅—小泉文夫のメッセージ」音楽会実行委員会。協力：東京藝術 大学音楽学部。協賛：一般財団法人 民主音楽協会、株式会社 大入、キングレコード株式会社、株 式会社 教育芸術社、株式会社 音楽之友社。助成：(公財)朝日新聞文化財団、藝大フレンズ賛助金 助成事業。後援：(公財)日本伝統文化振興財団。会場：東京藝術大学奏楽堂] 開催。 ①演奏会：出演：[長唄] 味見純(唄)、味見亨(三味線)、新井康子(三味線)、中川善雄(笛)。[南インド・ ヴィーナー] 的場裕子(ヴィーナー)、荒井俊也(ムリダンガム)、竹原幸一(モールシン)。[南インド・声楽] 井上貴子(声楽)、荒井俊也(ムリダンガム)、チャンダン・ランガラージャン(ヴァイオリン)、竹原幸一(モール シン)。[インドネシアバリ・ガムラン] 皆川厚一、増野亜子、城島茂樹、濱元智行。[モンゴル・ホー ミー] B.ボルド・エルデネ(ホーミー)。[ウイグル・ラワーブ] アブドセミ・アブドラハマン(ラワーブ)。 [邦楽囃子] 望月太左衛門と児童ほか。[尺八] クリストファー・遙盟、[雅楽] 宮丸直子(三ノ鼓)、中村 仁美(箏)、伊崎善之(高麗笛)。[インドネシア ジャワ・ガムラン] サプトノ、田村史子、佐藤まり子、 森重行敏、芹澤薫、村上圭子、慶野由利子、森岡真理子、木村佳代、白井眞由美、山田敦子、 鴻巣香、二藤宏美、風間純子、遠藤和宏、大田美郁、植村紀子、中田一子、三浦牧子、櫻井陽、 後藤弓寿、黒木泰志、佐々木翔太郎、福岡正太。司会：田中美登里。 ②パンフレットの作成(無料配布)。③当室所蔵楽器の展示および小泉文夫出演 映像の上映(奏楽堂ロビー)。④DVD製作(収録内容を編集)。
2015.冬	学内ワークスタディ(学生アルバイト)経費事業開始。写真保管方法の変更、LPレ コードのOPAC(オンライン蔵書目録)入力開始(~2021現在)。
2016.10/23~ 11/27	浜松市楽器博物館特別展「世界を聴いた男、民族音楽学者・小泉文夫からのメッ セージ」 [同館と共催、会場：浜松市楽器博物館] 開催。
2017	各種DBを蓄積する室内サーバが経年劣化で機能停止。媒体横断型のDB配信への 切り替えを前提に、新HP作成準備開始(~2021現在)。各種DB(オープンリール、 カセットテープ、雑資料)の整理および所蔵楽器画像のデジタル化。
2017.4/6~ 6/30	クラウドファンディング「 小泉文夫の研究姿勢を受継ぐ、児童向けWeb教材を充 実させたい 」[東京藝大×クラウドファンディング READYFOR] 実施。支援者96名 の皆様から1,245,000円のご寄付をいただく。所蔵楽器および資料を出品。
2017.8/25	「能楽公演 東京藝術大学130周年記念特別展 藝「大」コレクション展 パンドラの 箱が開いた! 関連企画 」 [助成：藝大フレンズ賛助金、東京藝術大学音楽学部同声会助成 金、公益財団法人 文化財保護・芸術助成財団+上掲クラウドファンディング経費] 実施。 舞囃子、仕舞、連吟などを公開収録して「アジアの楽器図鑑」で公開。 協力者：武田孝(本学音楽学部邦楽科教授 宝生流)、古田亮(本学大学美術館准教授)
2017.12	「アジアの楽器図鑑」の更新：「能楽」と「津軽三味線」。日本篇を全英訳。
2017.7/8~ 12/24	「小泉文夫とシルクロードの音楽展」 [主催：民音音楽博物館、協力：当室、会場： 民音音楽博物館 西日本館] 開催。所蔵楽器、衣装および資料を出品。
2018.1/13	平成29年度シリーズ・千住で聴く世界の音楽 第10回「 小泉文夫と世界の音楽 」 [企画：東京藝術大学アトリエゾンセンター、協力：当室、場所：東京藝術大学千住キャン パス3階スタジオA 内容：第1部 小泉先生紹介映像と植村室長によるレクチャー「小泉文 夫と馬のリズム」第2部 演奏と解説(曲や楽器など) モンゴル：ボルド・エルデネ(馬頭琴、ホ ーミー、縦笛)、韓国：朴善英(コムンゴ)、李昌燮(チャンゴ)ほか] 開催。
2018.夏	展示スペースの拡張(音楽総合研究センター2Fの一部)により閲覧スペースが増える。
2019.4	【人事】大原崇嘉教育研究助手着任 (~2021現在)。
2019.4~	「アジアの楽器図鑑」の更新：英語版デジタルコンテンツ作成(~2021現在)。
2019.10/12~ 2020.7/12	「小泉文夫とシルクロードの音楽展II」 [主催：民音音楽博物館、協力：当室、会場： 民音音楽博物館 企画展示室] 開催。所蔵資料を出品。
2020.6	第31回小泉文夫音楽賞特別賞受賞(コロナウイルス感染防止対策のため授賞式は 2021.6.3に延期)

